

- 1 課題名 漁業資源・漁場調査と情報提供事業
- 2 区分 委託, 県単, 国庫補助
- 3 期間 昭和52年～平成23年
- 4 担当 資源海洋部 (安江尚孝・内海遼一・土居内龍・中地良樹・吉本 洋)

5 目的

我が国周辺海域における漁場環境のモニタリング, 漁業資源の適切な保存および合理的・持続的な利用を図るための資源診断・動向予測・最適管理手法の検討に必要な基礎資料を整備する。また, 調査結果をもとに, 関係漁業者・団体に情報提供を行う。

6 成果の要約

1) 試験方法

生物情報収集調査(マイワシ, カタクチイワシ, ウルメイワシ, マサバ, ゴマサバ, マアジ, マダイ, トラフグ, サワラ, ムロアジ類, タチウオ), 海洋観測調査(卵稚仔調査含む)を行った。

2) 成果の概要

(1) 漁獲統計, 生物測定データ, 海洋観測データなどが継続収集された。

(2) 調査結果は, (独)水産総合研究センター, 各都道府県水産試験場, 漁業情報サービスセンターで構成するネットワークシステム (FRESCO)によりオンラインデータベース化された。

(3) 水産庁と(独)水産総合研究センターにおいて, 主要魚種については「資源評価表」が策定・公表された。

7 成果の取り扱い

(1) 成果の普及

主要魚種の資源評価については, 水産庁と(独)水産総合研究センターによって公表された。和歌山県に関連する情報については, 漁海況情報やカタクチイワシ産卵情報などを通じて関係漁業者・団体に提供された。

(2) 成果の発表

第37回瀬戸内海東部カタクチイワシ等漁況予報会議; 平成18年度太平洋イワシ, アジ, サバ等長期漁海況予報会議; 卵・稚仔, プランクトン調査研究担当協議会; 平成18年度中央ブロック資源・海洋研究会; 平成18年度水産学会近畿支部後期例会

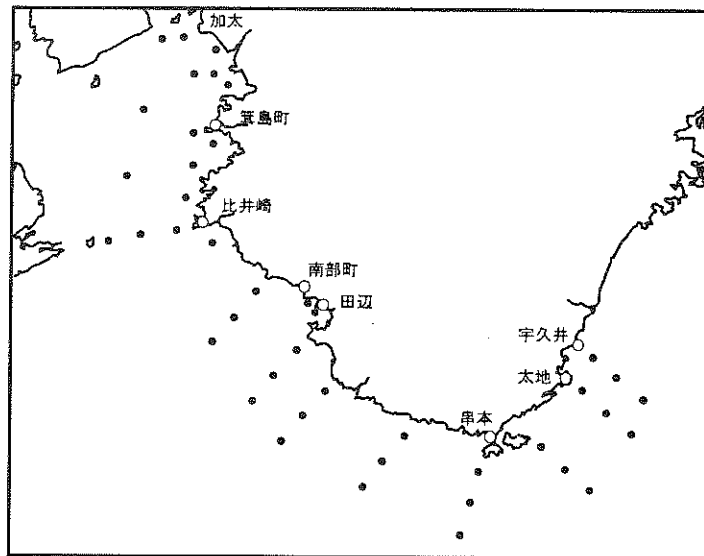


図1 主な調査地 (○)と海洋観測調査定点 (●)